

# 高層ビル警備員の「裏」がわかる実録ルポ 『気がつけば警備員になっていた。』が刊行

～笑って泣けてじんわりくる、中年警備員のドタバタ奮闘記が書籍化！～

株式会社笠倉出版社(本社:東京都台東区、代表取締役:笠倉伸夫)は、警備業界の裏側に迫るルポルタージュ『気がつけば警備員になっていた。』を2021年6月28日(月)に刊行いたします。

【URL】<https://www.amazon.co.jp/dp/4773061324>



24時間365日、喜びも悲しみも「ビルの中」にあり。

逃げて、逃げて、また逃げて……。夢敗れ、挫折を繰り返し、現実から逃げ続けた青年がたどり着いた仕事は、「高層ビルの警備員」だった。

「誰でもなれる職業」と自嘲しながらも、置かれた場所で懸命に働く「施設警備員」の実態を、警備員自身が、愛と憎しみで描き出す実録ノンフィクション。

著者の堀田孝之氏は、高層ビルの「施設警備員」として4年間を過ごしてきました。そのときのリアルな体験をまとめたものが本書です。



商業施設やオフィスビルでは、たくさんの警備員が日夜働いています。お勤めのオフィスビルにも、デパートにも、美術館にも、駅にも、「施設」と呼ばれる場所には必ず警備員が配置されています。警備員の姿を見かけない日はないと言っても過言ではありません。

現在、警備を生業とする人の数は57万人を超えています。にもかかわらず、その仕事の実態は一般にはあまり知られていません。

警備員と聞くと、つい「立っているだけの仕事」「歩いているだけの仕事」のような偏見を伴ったイメージを持ってしまいがちです。しかし、本書を読むと、警備員は「マニュアル人間」には務まらない、非常に奥深い仕事であることがよくわかります。

コロナ禍の現在、失業者が増えるに従い、警備員を志す人が増えていくことが予測されます。そんななか本書は、警備業界を知るための格好の材料になるはずです。

これまでも、ベストセラーになった『交通誘導員ヨレヨレ日記』(三五館シンシャ)など、交通誘導警備員のルポルタージュは存在していました(堀田氏はこの漫画版の制作にも携わっています)。

しかし、施設警備員についての詳細なルポは、本書が本邦初です。そういった意味では、貴重な「職業紹介本」といえます。

また、本書の最大の魅力は、「読み物としての面白さ」です。単なる「職業紹介本」の枠にとどまらず、まるで映画のストーリーを追っているかのように、ときに笑いあり、涙ありで、感情を揺さぶられながら読み進めることができます。

一人の青年が中年になっていくにつれ、「夢と現実」「仕事と家庭」「自意識と差別」「怒りと諦め」の間でもがき苦しむ様は、「青春物語」として読み解くこともできます。

若年層から中高年まで、「置かれた場所で懸命に働くすべての人」を応援する作品です。

◆プロローグ◆  
こうして私は警備員になった

- 003 その挫折が警備員への第一歩だった
- 006 夢をあきらめて出版業界に就職したものの……
- 008 編プロを失踪し、収入ゼロになる
- 010 ハローワークで「人生甘くみるな」と怒られる
- 014 気がつけば警備員になっていた

◆第1章◆

高層ビル警備員、本日も異常なし！

- 022 のんびりできない防災センター
- 028 敷地内と敷地外、警備員にできること
- 032 巡回距離は1日10キロ!? 1カ月で10キロ痩せた
- 037 立ち続けるのも警備員の大切な仕事

◆第2章◆

ほとんど苦勞、ときどき楽しい警備の仕事

- 094 前職での挫折が警備員になる第一歩
- 098 鍵！ 鍵！ 鍵！ 鍵を1本でも紛失したら死活問題



- 103 名前のない「警備さん」たち
- 108 警備員の腕の見せどころ 工事業者との攻防戦
- 114 「お前、いま何してるの？」警備員であることの羞恥心
- 116 警備員の給料
- 120 深夜の公園で号泣していた外国人女性と
- 123 警備員の夜の悪ふざけ
- 126 オフィスビルは不倫痴態
- 133 非常階段でセックスしないでください！
- 139 喫煙警備員の究極の選択
- 142 警備員にとって「いい仕事」とは何か？
- 151 45階の高層ビルの屋上から眺める東京の絶景

### ◆ 第3章 ◆

#### 警備員の知られざる生活ドキュメント

- 156 東日本大震災と警備員

- 162 警備員の食事
- 164 仮眠ベッドが臭すぎて眠れない
- 166 勤務明けの帰りに……
- 168 超かわいい女性警備員がやってきた！けれど……
- 170 なぜ、警備員には薄毛が多いのか？
- 172 出勤簿の勤務時間を書き換える「正社員」たち
- 176 警備員の合コン事情

### ◆ 第4章 ◆

#### さようなら、警備の仲間たち

- 184 大雪の夜に
- 188 資格をとるといふことは……
- 192 ビジネスエリートが教えてくれたこと
- 196 人間の器は警備員への態度でわかる
- 198 お正月に飛び立つ「警備さんの帽子」



- 203 さようなら、愛しの警備員たち

### ◆ エピローグ ◆

#### 人は何度でも同じ過ちを繰り返す

- 207 ついに書籍の編集者になった！
- 209 そして再び、部屋は空っぽになる
- 212 売れない本を量産して会社を潰した
- 214 どんなにがんばっても報われない人生はある
- 218 そしてまた私は、警備員になった

- 222 あとがき

- 223 編集後記



※本書に登場する固有名詞はすべて仮名とした。  
実在する人物・団体とは一切関係ないとしつつも、  
起きた出来事はすべて著者が体験したものである。

### 警備員の給料

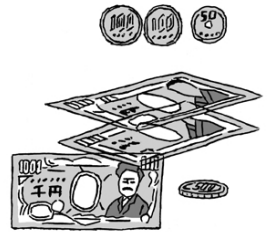
警備員の月間の勤務スケジュールは、「出勤」「明休」「公休」をサイクルさせ、月におよそ10回勤務するのが基本である。

私は時給が1000円だった。朝のエレベーター対応で残業代が1時間つくので、休憩時間と仮眠時間の計6時間を除くと、19時間労働で1万9000円になる。

これに、夜の10時から朝の5時には深夜労働代が1時間につき250円加算される(仮眠する時間帯によって加算額は変わる)。

夜7時から仮眠するシフトで、夜11時から朝の5時まで稼働していた場合、総額で1500円が加算されることになる。

つまり、2万5000円が1回の勤務で得られる最高賃金だ。月収にして20万5000円。



ここから、社会保険料や住民税が引かれて、16万円程度が手取りとなる。収入を増やしたければ、公休日を減らして勤務回数を増やしてもらうか、日勤だけ入る日や、明残(翌日の夕方5時まで残業)を増やすしかない。それでも手取りにして20万円程度稼ぐのが限界である。

菜々ちゃんは出版社のアルバイトで6万円程度もらっていた。すると、堀田家の手取りは22〜26万円となる。

東京で3人家族が暮らしていくにはギリギリの金額だ。ただし、一家が路頭に迷うほどではない。贅沢しなければ「その月暮らし」ができる金額である。

問題なのは、「その月暮らしでいいのか」「この生活が」「どこにもある普通の家庭なのか」という点だ。

世の中には、当時の堀田家よりも少ない月収で、「どこにもある普通の家庭」を築いている人だっているだろう。

しかし私は、このままで、「どこにもある普通の家庭」を築けるのか、ずっと不安だった。

### 真夜中の訪問者たち

深夜の高層ビルには、さまざまな人がやってくる。グランドシテータワーの閉館時間は午前2時なので、それより前の時間なら誰でも自由に出入りができる。

閉館時には、館内に残っている人に退館をお願いする。

1階のロビーのソファには、閉館時に私と同年代のホームレスの男性が座っていることがよくあった。見た目はホームレスとすぐにわからないが、近づくと酸っぱい強烈な匂いが漂ってくるため間違いない。

真冬にホームレスを外に追い出すのは、つらい仕事だった。これからどこに行けばいいのかわからない。追いつかなくていい。真冬にホームレスを外に追い出すのは、つらい仕事だった。これからどこに行けばいいのかわからない。追いつかなくていい。



監視モニターにはホームレスの姿がバッチリ映っている。もし放置をして、警備員がホームレスの滞在を黙認していたことが判明すれば、職務怠慢として追及を免れない。

私はホームレスに近づき、「閉館時間ですので、退館をお願いします」と言った。すると、ホームレスは私の目を見ないまま、何も言わずに外に出ていった。

彼はこのビルが午前2時までなら滞在できることを知った。その後もしばしば姿を見かけたが、午前2時になると自主的に退館するようになった。

彼は、金曜と土曜も午前2時に退館していた。金土は最上階のバーが午前4時30分まで営業しているため、閉館時間もそれに合わせている。そこで私は、出ていこうとする彼の背中を、「金曜と土曜は4時30分まで大丈夫ですよ」と声をかけた。

すると彼は、立ち止まって振り返ると、私の目を見て「ありがとう」と呟いた。

酔っ払いも、ビルの中に残ってしまふことが多い。

その日は、エントランス近くのソファに若い女性が眠り込んでいた。女性というのがややこしい。肩を揺らすなど不用意に体に触れて、のちのち「警備員にセクハラされた」などと訴えられたらまったものではない。実際、そのような事例は数多く報告されている。

## 【書誌情報】

『気がつけば警備員になっていた。―高層ビル警備員のトホホな日常の記録』

著者:堀田孝之

定価:1430 円(本体 1300 円+税)

仕様:46 判/ソフトカバー/224 ページ

ISBN:978-4-7730-6132-1

発行:株式会社笠倉出版社

発売日:2021 年6月 28 日

●笠倉出版社:<https://www.kasakura.co.jp/>

●Amazon:<https://www.amazon.co.jp/dp/4773061324>

## 【著者プロフィール】

堀田孝之(ほったたかゆき)

1984 年、山梨県出身。横浜国立大学中退。日本映画学校卒業。雑誌の編集プロダクションを経て、施設警備員に。その後、いくつかの出版社を書籍編集者として渡り歩き、再び警備員になる(このあたりの顛末は本書に詳しい)。著書に『交通誘導員ヨレヨレ漫画日記』(三五館シンシャ)、『「鬼滅の刃」に学ぶ絶望から立ち上がるための 27 の言葉』(笠倉出版社)がある。

## 【発売記念トークライブ配信実施】

「気がつけば警備員になっていた。」×「交通誘導員ヨレヨレ日記」

著者二人が語る絶対に面白い “最前線現場のいま、”

トークのお題は、「警備員と交通誘導員、どっちがホントに大変なの?」「中年と壮年、どっちが生きづらい世の中なの?」など、似たようなテーマの本ながら、ふたを開けてみると世代も職場も異なる二人が見てきた、感じてきたことをとことん語り合ってください!

## 【開催日および開催場所】

日時:7 月 15 日(木)14 時~

場所:株式会社伊勢出版社内にて

東京都台東区浅草橋 1-24-1 高政ビル 3 階

配信 URL:<https://youtu.be/IX4PVKp1C7s>

※当日、メディアの方の取材をお受付いたします。トーク内容を抽出し、ぜひ記事にされてください。

## 【会社概要】

会社名:株式会社笠倉出版社

所在地:東京都台東区東上野 2-8-7

代表者:笠倉伸夫

設立:昭和 50 年5月

URL: <https://www.kasakura.co.jp/>

事業内容: 書籍・ムック・コミック・雑誌の出版

【お客様からのお問い合わせ先】

株式会社笠倉出版社 企画営業部

TEL:0120-984-164

e-mail: [sales@kasakura.co.jp](mailto:sales@kasakura.co.jp)

【本リリースに関する報道お問い合わせ先】

株式会社笠倉出版社 企画営業部 三上

TEL:0120-984-164

e-mail: [sales@kasakura.co.jp](mailto:sales@kasakura.co.jp)

株式会社伊勢出版(企画・編集)

編集担当: 伊勢

TEL:03-5846-9193

e-mail: [ise@ise-book.biz](mailto:ise@ise-book.biz)